



参考：日本評論社「開発経済学 貧困削減へのアプローチ」、JICA客員研究員報告書「ガバナンスと開発援助」、ほか

ガバナンス

20

B

さまざまなガバナンス指標

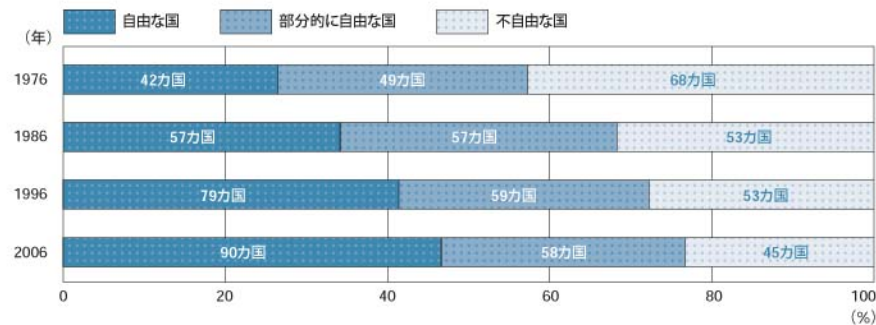
DATA

出典：Transparency International「Corruption Perceptions Index 2006」、Freedom House「FREEDOM IN THE WORLD 2007」、Committee to Protect Journalists「JOURNALISTS KILLED：STATISTICS AND BACKGROUND」

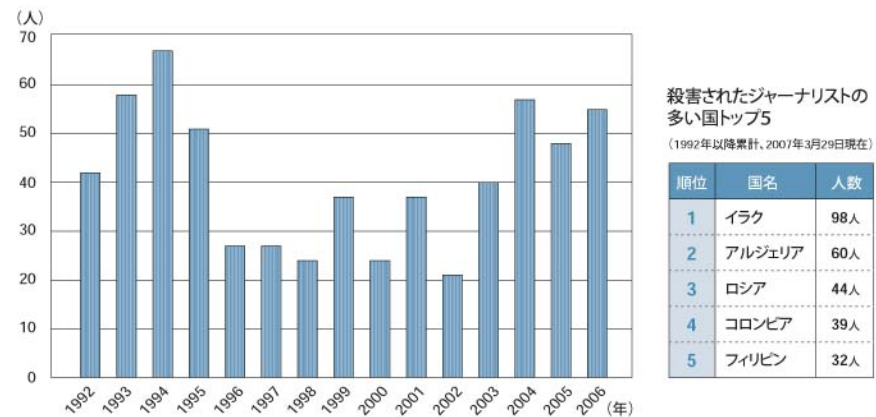
〔表1〕実感汚職指数（2006年）

順位	国名	スコア
1	フィンランド	9.6
	アイスランド	9.6
	ニュージーランド	9.6
4	デンマーク	9.5
5	シンガポール	9.4
6	スウェーデン	9.2
7	スイス	9.1
8	ノルウェー	8.8
9	オーストラリア	8.7
	オランダ	8.7
17	日本	7.6
151	ベラルーシ	2.1
	カンボジア	2.1
	コートジボワール	2.1
	赤道ギニア	2.1
	ウズベキスタン	2.1
156	バングラデシュ	2.0
	チャド	2.0
	コンゴ民主共和国	2.0
	スーダン	2.0
160	ギニア	1.9
	イラク	1.9
	ミャンマー	1.9
163	ハイチ	1.8

〔グラフ1〕自由な国、部分的に自由な国、不自由な国



〔グラフ2〕殺害されたジャーナリストの数



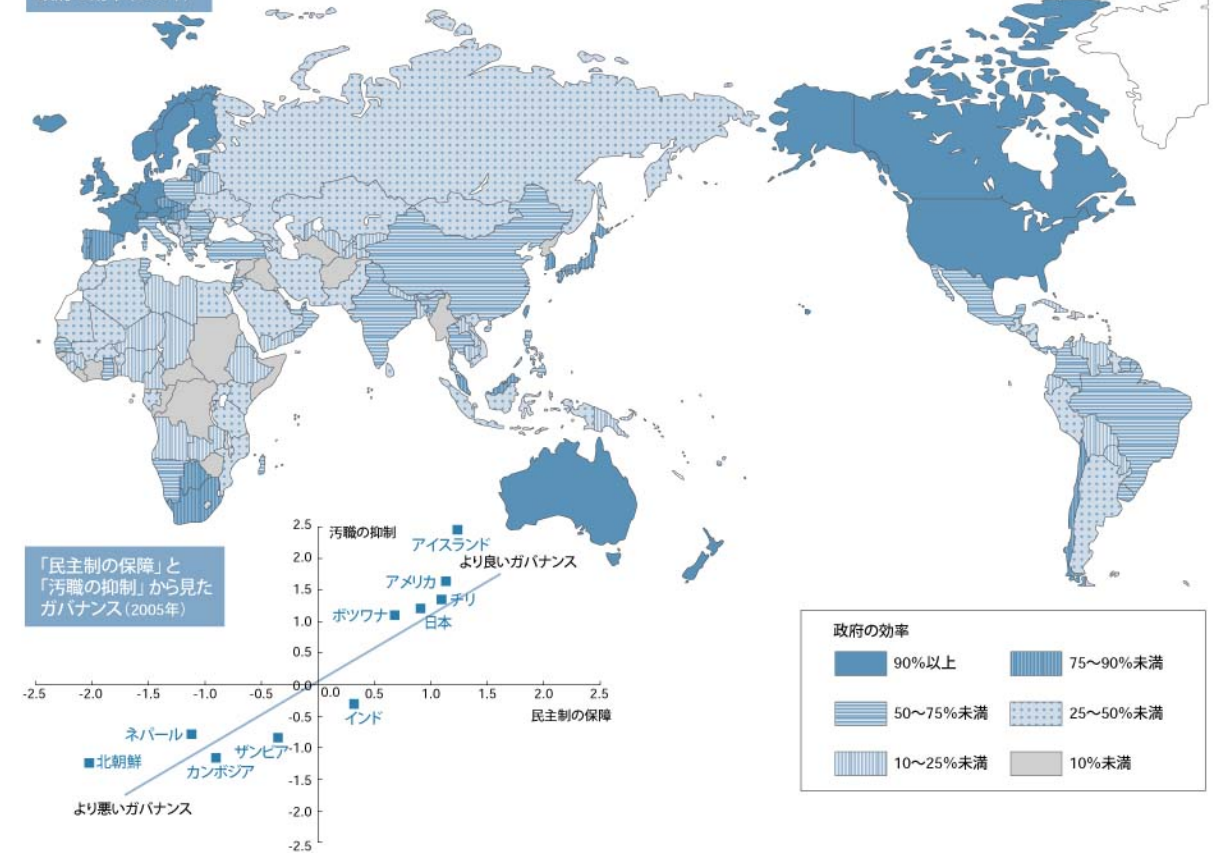
A

「政府の効率」に見るガバナンス

DATA

出典：世界銀行「Governance Matters V：Governance Indicators for 1996-2005」

政府の効率（2005年）



求められるガバナンス指標

ガバナンスが成長や貧困削減と正の関係にあることから、途上国のガバナンス改善を条件にした援助が、国際機関や欧米諸国によって積極的に行われるようになってきた。そのため、ガバナンスを診断・把握するための指標がさまざまな機関によって作られている。しかし、その多くは主観的な意見をもとにしたり、すべての国をカバーしているわけではないため、利用には注意が必要だ。

表1は、Transparency InternationalというNGOが毎

年発表している「実感汚職指数」の上位国と下位国だ。これはガバナンスの中でも、汚職の側面に的を絞っている。数値が10に近づくほど汚職が少ない。

グラフ2は世界の民主化を求めるNGO、Freedom Houseのデータだ。政治的自由度と市民の自由度をもとに、各国を3つに分類している。年を経るごとに自由な国の割合が増えていることが分かる。

ガバナンスの改善には、メディアによる監視が大きな役割を果たす。ジャーナリストが安全に活動できない国は、ガバナンスも良くないといえるだろう。

ガバナンスが良い国は援助の効率も良い

国際協力の分野における「ガバナンス」とは、政府が開発や国民の福祉向上を目指して努力し、効果的・効率的に機能しているか、そのために適切な権力が行使されているか、さらには政府の正当性や人権の保障など、国家のあり方を問題にしている。

世界銀行の研究グループは、「民主制の保障」「政治の安定」「政府の効率」「政策の妥当性・有効性」「法による支配」「汚職の抑制」というガバナンスの6つの側面に対応する指標を作成している。上の地図は、その

うちの「政府の効率」の程度を6段階に分けて国別に示したものだ。数値が上がるほど、公共サービスの質や公務員の能力などが望ましい状態であるといえる。

散布図のほうは、縦軸が「汚職の抑制」、横軸が「民主制の保障」の度合いを示し、図の右上に位置するほどガバナンスが良いということになる。

ガバナンス指標が良好な国は、1人当たり国内総生産（GDP）も高い傾向を示している。援助においても、ガバナンスの良い国のほうが、プロジェクトの成功率が高いことが実証されている。